

スルガ銀行

2022年3月期第3四半期 決算概況

2022年2月10日

スルガ銀行



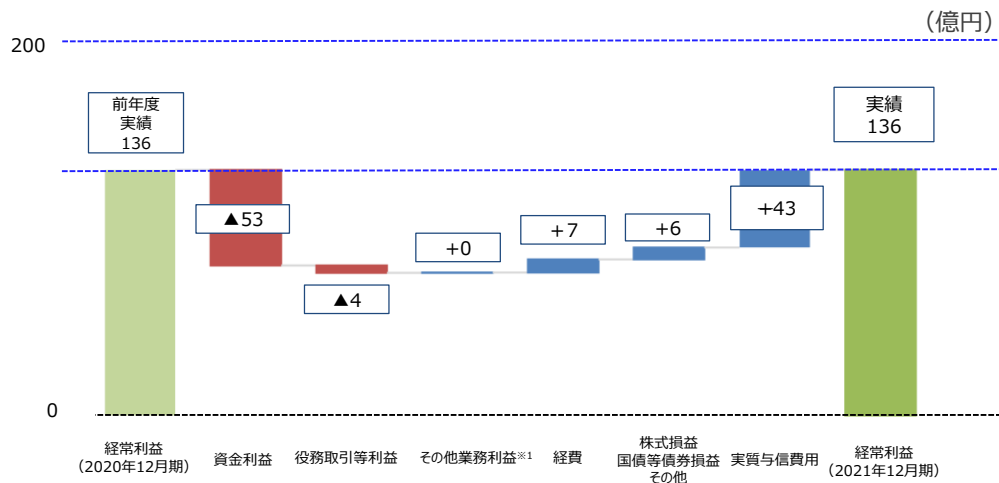
# ■ 2022年3月期 第3四半期実績 前年同期比

- ・ 業務粗利益は、資金利益の減少を主因に、前年同期比58億円減少の489億円。
- ・ 実質与信費用は、不動産担保保全額の見直しによる貸倒引当金の取り崩しを主因に、前年同期比43億円減少の66億円。  
なお、概ね計画どおりの進捗であり、通期見通しは160億円で据え置き。
- ・ 四半期純利益（単体）は、前年同期比18億円増加の94億円。
- ・ 四半期純利益（連結）は、前年同期比横ばいの95億円。

## ＜単体＞ (億円)

|                 | 2021年3月期<br>第3四半期実績 | 2022年3月期<br>第3四半期実績 | 前年同期比 |
|-----------------|---------------------|---------------------|-------|
| 業務粗利益           | 548                 | 489                 | ▲58   |
| 経費              | 305                 | 298                 | ▲7    |
| コア業務純益          | 237                 | 186                 | ▲50   |
| 業務純益            | 507                 | 377                 | ▲130  |
| 経常利益            | 136                 | 136                 | ▲0.3  |
| 純利益             | 75                  | 94                  | +18   |
| 実質与信費用          | 109                 | 66                  | ▲43   |
| ROE(%) (純利益ベース) | 4.2                 | 4.8                 | +0.6  |
| 親会社株主に帰属する純利益   | 94                  | 95                  | +1    |
| EPS(円) (連結)     | 40.6                | 41.3                | +0.7  |

| 経常利益増減要因 (前年同期比) |                                                            |
|------------------|------------------------------------------------------------|
|                  | 主な増減要因                                                     |
| 資金利益             | ・ 貸出金利息の減少<br>(平残要因▲39億円、利回り要因▲17億円)                       |
| 経費               | ・ 物件費の減少(▲6億円)<br>・ 人件費の減少(▲4億円)                           |
| 実質与信費用           | ・ 不動産担保保全額の見直しによる貸倒引当金の取り崩し(▲130億円)<br>・ 償却債権取立益の増加(+21億円) |



※1 その他業務利益は、国債等債券損益を除いております。



# ■ 実質与信費用、シェアハウス関連融資について <単体>

- シェアハウス関連融資先の実質与信費用は、期初想定どおり貸倒引当金の積み増しを行った一方で、中間期に不動産担保保全額の見直しを実施したことによる貸倒引当金の取り崩しが大きく発生し、▲53億円の計上。
- シェアハウス関連融資先以外の投資用不動産ローンにおける実質与信費用は、お客さまの一部の組織的な交渉の動きなどを勘案し、予防的引当として3Qに貸倒引当金の積み増しを行った結果、117億円の計上。

## ・実質与信費用/貸倒引当金について(2022年3月期)

(億円)

| 項目          |     |         |       | 第3四半期<br>実質与信費用 | 貸倒引当金    |
|-------------|-----|---------|-------|-----------------|----------|
|             | 1Q  | 2Q      | 3Q    |                 |          |
| シェアハウス関連融資先 | 1 2 | ▲ 8 0   | 1 4   | ▲ 5 3           | 6 8 2    |
| 投資用不動産ローン ※ | 1 9 | ▲ 1 3   | 1 1 2 | 1 1 7           | 6 4 6    |
| 住宅ローン       | ▲ 0 | ▲ 7     | 2     | ▲ 5             | 3 5      |
| 無担保ローン      | 1   | ▲ 0     | 1     | 1               | 2 1      |
| 買入金銭債権      | —   | —       | 1     | 1               | 1        |
| 事業性貸出等      | 1   | 1       | 3     | 5               | 8 7      |
| 合計          | 3 4 | ▲ 1 0 1 | 1 3 3 | 6 6             | 1, 4 7 4 |

※投資用不動産ローン：ワンルームローン、一棟収益ローン、その他有担保ローン

## ・シェアハウス関連融資保全状況

|           | 総与信残高<br>A |          | 保全額<br>B | 未保全額<br>C | 引当額<br>D | 保全率<br>(B+D)/A |
|-----------|------------|----------|----------|-----------|----------|----------------|
|           |            | シェアハウス債権 |          |           |          |                |
| 2021年 3月  | 1, 3 5 7   | 1, 0 7 2 | 5 2 5    | 8 3 1     | 7 6 7    | 9 5.2 4 %      |
| 2021年 9月  | 1, 3 1 6   | 1, 0 4 2 | 6 1 7    | 6 9 8     | 6 7 7    | 9 8.3 6 %      |
| 2021年 12月 | 1, 3 0 0   | 1, 0 3 1 | 6 0 0    | 7 0 0     | 6 8 2    | 9 8.6 0 %      |

- ※ シェアハウス関連融資のある債務者ベース
- ※ 保全額：担保等の評価額に一定割合を乗じて算出(当中間期に見直しを実施)
- ※ 総与信残高、シェアハウス債権：貸出金・貸出金に準ずる仮払金・貸出金未収利息



## ■ ローン種類ごとの残高、利回り、延滞率 <単体>

- ローン全体の貸出金利回りは、2021年9月末比0.06%低下し、3.53%。
- 個人ローンの延滞率は、シェアハウス関連融資先の債権一括譲渡希望に伴う返済停止債権の増加と投資用不動産ローンをご利用中のお客さまの一部に集団交渉を契機として返済停止を実施している方がいることを主因に、2021年9月末比1.85%上昇し、8.53%となったものの、これらの特殊要因を除く、個人ローン全体の延滞率では、2021年9月末比横ばい。

(億円)

| ローン種類                | 2021年9月 |        |        | 2021年12月 |        |        |
|----------------------|---------|--------|--------|----------|--------|--------|
|                      | 残高      | 利回り    | 延滞率    | 残高       | 利回り    | 延滞率    |
| 有担保ローン               | 18,236  | 3.07%  | 7.05%  | 17,874   | 3.05%  | 9.04%  |
| 住宅ローン                | 4,751   | 2.82%  | 0.27%  | 4,662    | 2.80%  | 0.33%  |
| ワンルームローン             | 1,550   | 3.39%  | 1.75%  | 1,479    | 3.38%  | 2.14%  |
| 一棟収益ローン              | 10,543  | 3.24%  | 4.70%  | 10,360   | 3.23%  | 7.16%  |
| シェアハウスローン            | 1,042   | 1.40%  | 73.33% | 1,030    | 1.40%  | 81.72% |
| その他有担保ローン            | 348     | 4.66%  | 0.34%  | 339      | 4.62%  | 0.23%  |
| 無担保ローン               | 1,568   | 10.37% | 2.28%  | 1,503    | 10.38% | 2.32%  |
| カードローン               | 1,045   | 11.75% | 0.85%  | 1,007    | 11.76% | 0.86%  |
| 無担保保証書貸付等            | 522     | 7.59%  | 5.14%  | 496      | 7.58%  | 5.29%  |
| 個人ローン(A)             | 19,804  | 3.64%  | 6.68%  | 19,377   | 3.62%  | 8.53%  |
| 個人ローン(シェアハウス関連融資を除く) | 18,488  |        | 2.74%  | 18,077   |        | 4.11%  |
| 資産管理会社向け投資用不動産ローン(B) | 222     | 1.87%  | —      | 276      | 1.84%  | —      |
| ストラクチャードファイナンス等(C)   | 508     | 2.34%  | —      | 588      | 2.25%  | —      |
| 買入金銭債権(D)            | —       | —      | —      | 299      | 1.96%  | —      |
| 合計<(A)(B)(C)(D)合算>   | 20,535  | 3.59%  | 6.45%  | 20,542   | 3.53%  | 8.05%  |

※延滞率 = 3カ月以上延滞債権 ÷ ローン残高

※利回り：対顧客利回り（保証料、未収利息勘案前）、未残ベース

※ワンルームローン・有担保ローン・個人ローン・合計<(A)(B)(C)(D)合算>の利回り・延滞率は証券化した債権を原債権ベースで算出

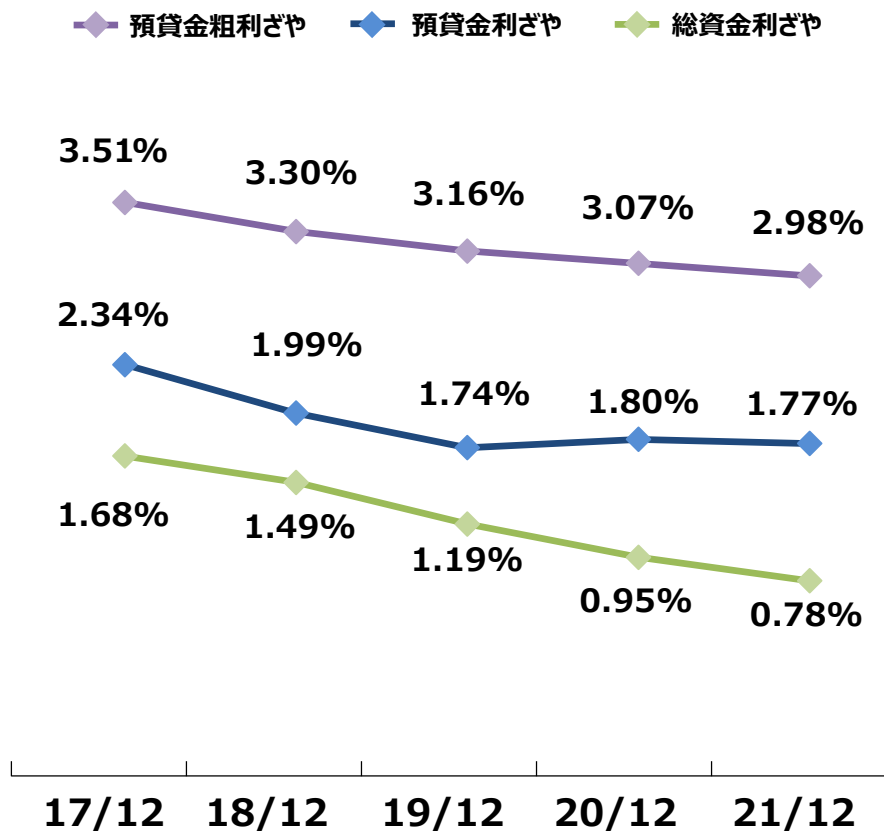
※商品単位で集計しており、シェアハウスローンの利用中、もしくは組織的交渉に参加しているお客さまが約定返済を停止している場合、他の商品の延滞率にも影響

# ■ 利ざや等の状況、貸出金・預金 利回り／平残 <単体>



- 預貸金利ざやは、条件変更に伴うレートダウン対応の継続等による貸出金利回りの低下（前年同期比▲0.10%）が、経費率の低下（前年同期比▲0.06%）を上回り、前年同期比0.03%縮小し、1.77%。
- 総資金利ざやは、資金調達原価の低下を資金運用利回りの低下が上回り、前年同期比0.17%縮小し、0.78%。
- 貸出金平残は、特殊要因(シェアハウス関連融資債権の一括譲渡、約442億円)もあり、前年同期比1,740億円減少し、2兆2,622億円。
- 預金平残は、前年同期比1,006億円増加し、3兆2,868億円。

利ざや等の状況



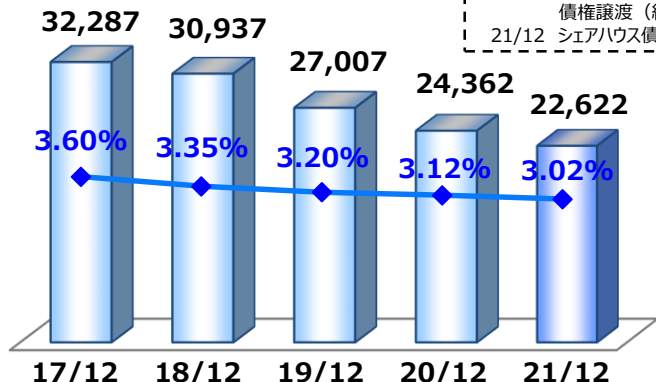
貸出金利回りと貸出金平残

■ 貸出金平残 (億円)

◆ 貸出金利回り

<貸出金増減の特殊要因>

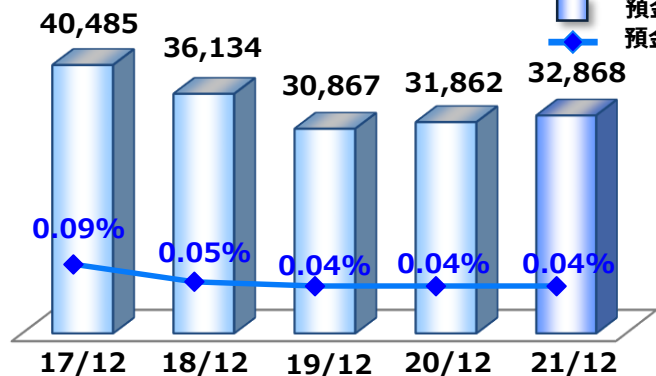
19/12 1Rローン証券化 (約▲1,000億円)  
20/12 創業家融資回収、シェアハウス債権譲渡 (約▲1,000億円)  
21/12 シェアハウス債権譲渡 (▲442億円)



預金利回りと預金平残

■ 預金平残 (億円)

◆ 預金利回り

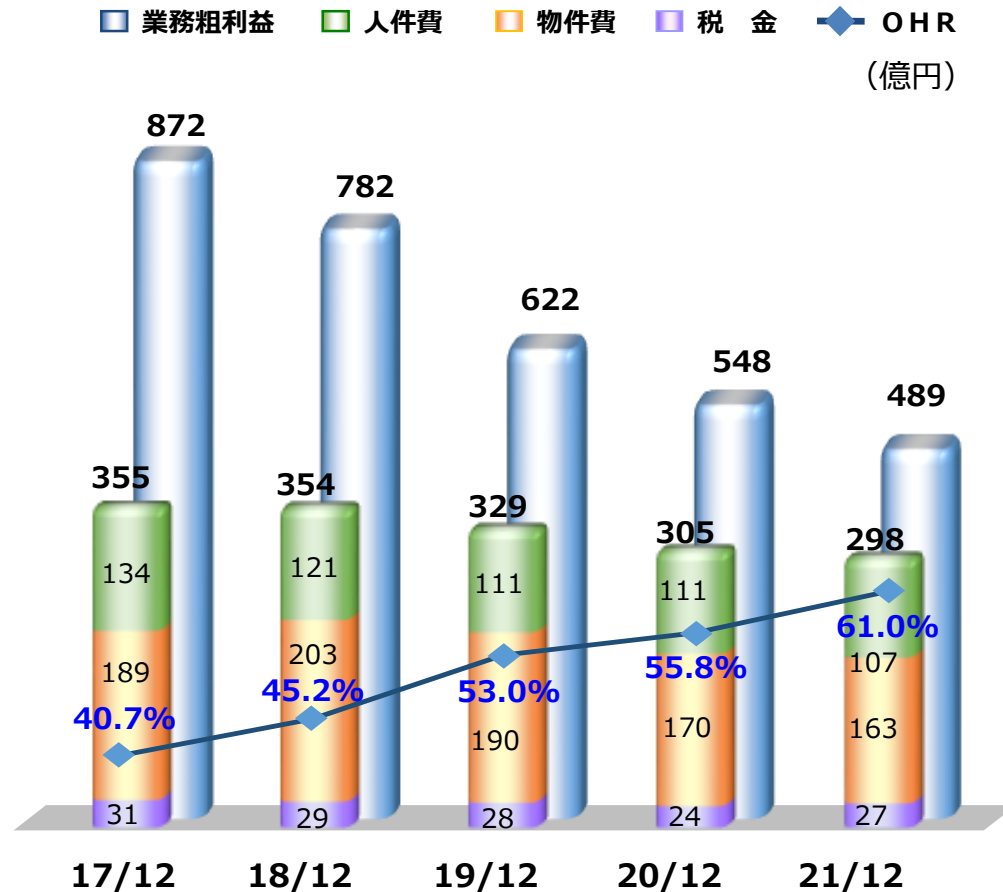




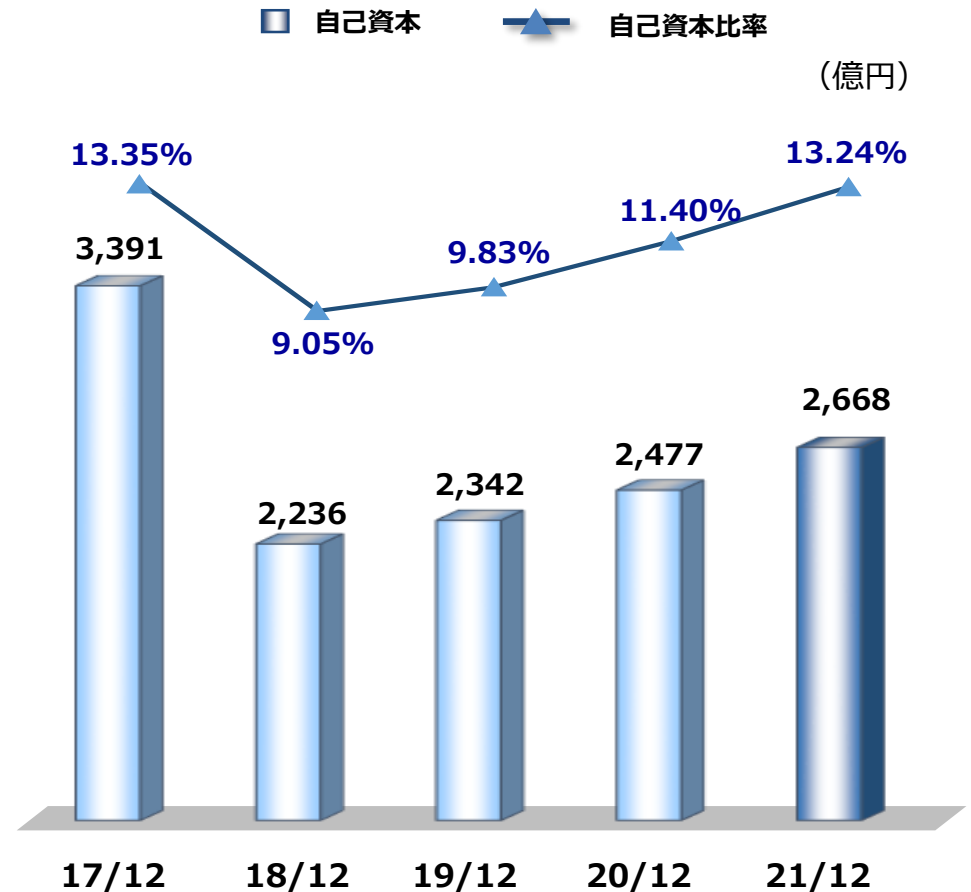
## ■ 経費・OHR、自己資本比率の推移 <単体>

- OHRは、業務粗利益が減少したことにより、前年同期比5.2%上昇し、61.0%。
- 経費は、前年同期比7億円減少し、298億円。中期経営計画第1フェーズ最終年度の計画値400億円に向けて、順調に削減を進めている。
- 自己資本比率(単体)は、前年同期比1.84%上昇し、13.24%。(連結は13.52%)

### 経費・OHRの推移



### 自己資本・自己資本比率の推移





- 2021年度は、期初より新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、下期偏重の通期1,200億円の新規実行を計画。新型コロナウイルス感染の拡大/抑制フェーズに伴う経済環境の変化に苦慮しながらも、2021年度第3四半期において690億円の新規実行。
- 市場から当社の目指すミドルリスクミドルリターンに見合う債権を2021年度第3四半期に購入。
- 足元、オミクロン株による第6波の急激な感染拡大が予断を許さない状況であり、先行きの不透明感が高くなっているが、不動産取引が活況となる年度末を見据えて営業を強化し、年度計画の達成を目指す。

## ・中期経営計画で推進するローン実行額推移

(億円)

|                   | 2022年3月期<br>第3四半期 |       |       |       |
|-------------------|-------------------|-------|-------|-------|
|                   |                   | 1Q    | 2Q    | 3Q    |
| 個人ローン             | 2 3 6             | 7 2   | 6 8   | 9 5   |
| 資産管理会社向け投資用不動産ローン | 1 2 9             | 2 8   | 4 4   | 5 6   |
| 小計                | 3 6 5             | 1 0 1 | 1 1 2 | 1 5 1 |
| ストラクチャードファイナンス    | 3 2 5             | 9 3   | 1 0 8 | 1 2 3 |
| 合計 (A)            | 6 9 0             | 1 9 4 | 2 2 0 | 2 7 4 |
| 買入金銭債権 (B)        | 2 9 9             |       |       | 2 9 9 |
| 総合計 (A)+(B)       | 9 9 0             | 1 9 4 | 2 2 0 | 5 7 4 |

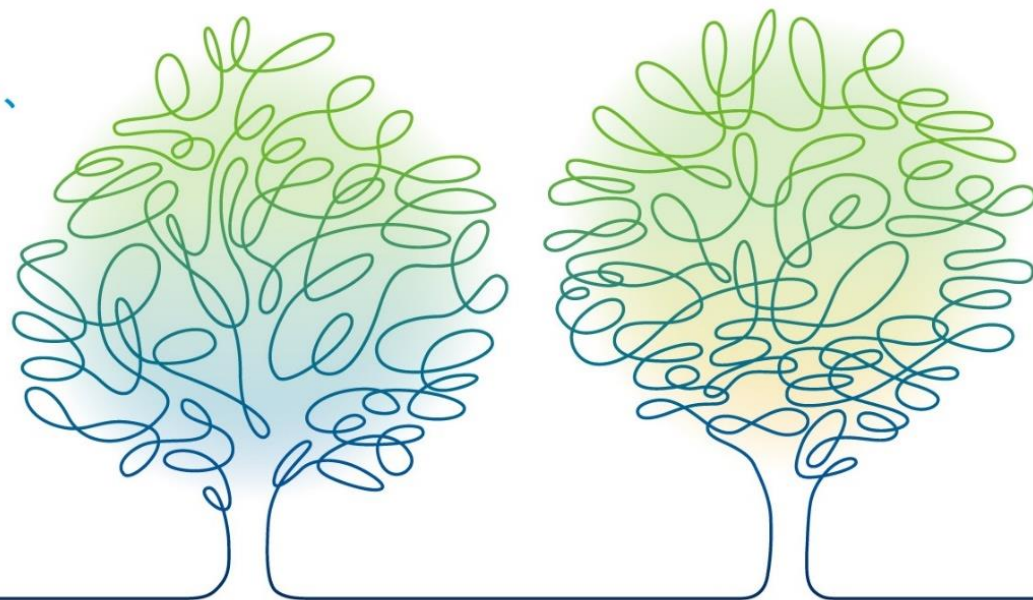
## 參考資料





あってよかった、  
出会えてよかった、  
と思われる存在でありたい。

どんなに時代が変わろうとも、どんなに時が経とうとも、  
お客さま視点に立ったサービスを追求するとともに、  
お客さまの人生に寄り添い、  
必要とされる価値と、豊かな暮らしを提供します。



〈私たちの想い〉

私たちは、何よりもお客さまのことを考える銀行でありたい。

お客さまの声に真摯に耳を傾けて、スルガならではの付加価値を提供することで、お客さまから「あってよかった、出会えてよかった。」と思われる存在を目指します。

お客さまに心から満足していただくためには、サービスを提供する社員がやりがいを感じていることが不可欠です。

お客さまからだけでなく、社員にとっても、「あってよかった、出会えてよかった。」と思われる存在になりたい、という想いを込めています。



スルガ銀行



## 企業理念

“あってよかった、出会えてよかった、と思われる存在でありたい。”

お客さま満足

株主価値

社員満足

社会への貢献

価値提供

新しいスルガ銀行の姿

## ビジョン

- ・**企業理念**の実現に向けて、**お客さま本位の業務運営**を徹底し、コアビジネスであるリテールバンキングへの取り組みを通じて、当社ならではの**独自の価値提供**を実現することで、お客さまに心から満足していただき、社員もやりがいを感じる**“新しいスルガ銀行の姿”**を創出
- ・**コンプライアンスの徹底とリスク・リターン**の適正なコントロールを行う態勢を構築し、公共性が高い金融機関として**“持続可能な新たなビジネスモデル”**を展開

## 経営戦略

コアビジネスである「リテールバンキング」を再構築するとともに、リスク分散と収益の安定化を目的に「市場性運用」を推進

- ✓ **RA業務粗利益\***をコントロールし、リスク・リターンのバランスがとれた収益基盤を構築

リスク資本をコントロールした既存ビジネスの推進と新規事業への取組み、ストレス環境下で顕在化するリスクへの備え

- ✓ バゼルⅢ改定後においても**自己資本比率8%以上**を堅持し、事業戦略を実現

\* RA（Risk Adjusted）業務粗利益＝業務粗利益－実質与信費用



## 環境認識

### マイナス金利継続

- ✓ コスト削減、人員見直し
- ✓ 非金利ビジネスに注力

### 規制対応

- ✓ バーゼルⅢ改定
- ✓ 異業種参入による業際の見直し

### Fintech対応

- ✓ システム化・省力化投資
- ✓ 異業種連携によるプラットフォーム化

### 社会の変化

- ✓ 少子高齢化
- ✓ 都心集中

### 消費者の変化

- ✓ 相続・資産形成意識の向上
- ✓ 労働力・働き方・サービスニーズの多様化

## 戦略

### 第1フェーズ(2019年度～2022年度)

#### 重点課題への対処

シェアハウス  
関連融資等

創業家との  
早期関係解消

#### リテール バンキング

- ✓ 投資用不動産ローンはターゲットを変更し「質」を転換
- ✓ ソリューション型営業モデルへの進化
- ✓ エリア特性を踏まえた展開

#### 市場性運用

- ✓ 信用リスク中心のポートフォリオからの転換
- ✓ ダウンサイドリスクが抑制された安定運用を志向

#### 新規事業

- ✓ 外部企業との提携
- ✓ API連携基盤の活用

#### 経営資源配分の最適化

店舗業務改革

人財資源の  
リアロケーション

グループ機能の見直し

経費削減

### 第2 フェーズ

2023年度  
～  
2025年度

新しいポジションの確立



| マテリアリティ候補の整理                                                      | マテリアリティの抽出・特定                                                                                        | スルガ銀行グループのマテリアリティ                                                                      | スルガ銀行グループの取り組み                                                                                                                                                                                                       | 関連するSDGsのゴール |
|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| マテリアリティの検討は2020年に世界経済フォーラムで提唱された「ステークホルダー資本主義指標」の4つの柱/測定基準を参考に整理。 | 当社グループが大切にしていること、ステークホルダーにとって大切なことの要素情報を分析・評価し、双方にとって重要な課題「マテリアリティ」を策定。                              | 当社グループのマテリアリティは以下の4つ。各マテリアリティは独立したものではなく、すべてが有機的に結びついており、全てのステークホルダーへの責任を果たすうえで不可欠な要素。 | マテリアリティとして掲げた4つのテーマごとに、社内・社外の課題解決のため以下の取り組みを推進。それぞれの取り組みは、SDGsのゴールと結びついており、持続可能な開発目標の達成に資するものであり、今後も取り組みの実効性の向上・レベルアップを図る。                                                                                           |              |
| ガバナンスの原則                                                          | <b>スルガ銀行グループにとって大切なこと</b><br><br><b>企業理念<br/>コンプライアンス憲章<br/>中期経営計画<br/>“Re:Start2025”<br/>歴史・あゆみ</b> | 盤石なガバナンス基盤の確立                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業理念の浸透</li> <li>● コーポレートガバナンスの高度化</li> <li>● 強固なコンプライアンス態勢の構築</li> <li>● お客さま本位の業務運営の実現</li> <li>● 金融犯罪防止への取り組み強化</li> </ul>                                               |              |
| 人（People）                                                         | ✕                                                                                                    | 社員が活躍・成長できる環境の整備                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社員の成長を支援する人材育成体系</li> <li>● ワークライフバランス施策の充実</li> <li>● ダイバーシティ・障がい者雇用の推進</li> <li>● 社員の心身の健康向上への取り組み</li> <li>● 社員のモチベーション向上への取り組み</li> </ul>                               |              |
| 繁栄（Prosperity）                                                    |                                                                                                      | サステナブルな地域経済・社会の構築                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>● リテールバンキングを通じた多様なお客さまニーズへの対応</li> <li>● 地域の企業や事業主へのソリューションの提供</li> <li>● 自治体とのパートナーシップによる地域活性化貢献</li> <li>● 事業継続計画（BCP）の取り組み</li> <li>● 未来を担う子供たちの文化・芸術・スポーツのサポート</li> </ul> |              |
| 地球（Planet）                                                        | <b>ステークホルダーにとって大切なこと・スルガ銀行グループへの期待</b><br><br>                                                       | 環境保全への貢献                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の環境保全活動への参加・協力</li> <li>● 手続・業務のデジタル化推進による環境負荷の低減</li> <li>● 店舗設備等の環境対応の推進</li> </ul>                                                                                     |              |





## ・2022年3月期 中間決算説明資料より (P2)

(億円)

|        |                    | 通期見通し   |
|--------|--------------------|---------|
| 実質与信費用 |                    | 1 6 0   |
|        | 通常発生分(a)           | 1 0     |
|        | シェアハウス関連融資(b)      | 4 0     |
|        | シェアハウスローン債権一括譲渡(c) | ▲ 1 0 0 |
|        | 予防的引当(d)           | 3 4 0   |
|        | 不動産担保保全額の見直し(e)    | ▲ 1 3 0 |

**通常発生分(a)**

シェアハウス関連融資等の特殊要因のない債権の実質与信費用は、次の2つの要因から前回計画対比30億円減少の通期10億円を想定。  
 ①個人の要注意先/要管理先の残高減少 ②不動産価格上昇による債権譲渡価格の上昇

**シェアハウス  
関連融資(b)**

シェアハウス関連融資先に対する実質与信費用は、通期40億円の期初想定を据え置き。

**シェアハウスローン  
債権一括譲渡(c)**

シェアハウスローン債権一括譲渡による貸倒引当金戻入益は、前回計画対比50億円減少の100億円を想定。  
 本手続きを希望する一部のお客さまの手続き完了が来期の予定に変更となることなどが要因。

**予防的引当(d)**

予防的引当については、前回計画据え置き340億円を想定。個別の債務者の状況を精査し、債務者区分や引当方法の見直しを検討しており、シェアハウスローン以外の投資用不動産ローンをご利用中のお客さまの一部に組織的な交渉の動きがみられる状況などを勘案。  
 中間期の想定を下回った分は、下期に発生することを見込む。

**不動産担保  
保全額の見直し(e)**

不動産担保保全額の見直しについては、中間期実績を精査した結果、貸倒引当金の取り崩しが前回計画対比20億円増加の130億円。  
 (不動産担保保全額の見直しは、直近のサービサーへの債権売却実績が不動産担保評価を大きく上回る状況が続いていることから、  
 当社の定期的な見直しルールに基づき掛目の見直しを実施)



〈 本件に関する照会先 〉  
総合企画本部 広報室

[TEL] 03-3279-5536  
[メールアドレス] ir.koho@surugabank.co.jp

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。